



大安場1号墳主体部

大安場古墳群は、4世紀から5世紀にかけて作られた田村町大善寺地区にある古墳群です。中でも1号墳は全長83mで、東北で一番大きな前方後墳です。

大安場1号墳からは骨が出てきていませんが、土の成分を調べることで、埋葬された状況を調べることができます。遺体が置かれた場所には、リン酸やカルシウムなど、特定の成分が残ることがあるからです。残念ながら、成分が集中して出てくる場所はみつきありませんでした。長い時間の中で無くなってしまったようです。

木棺の中から、炭化したイネやコムギが見つっています。焼いたものを、棺の中に納めたのでしょうか？

分析の結果、14世紀ごろのものだと分かりました。大安場1号墳のある場所は中世に、館として利用されたことが分かっています。その時代の種子が、何らかの原因で木棺の中に入り込んだようです。

ここから何か所かに分けて、試料を採取します。

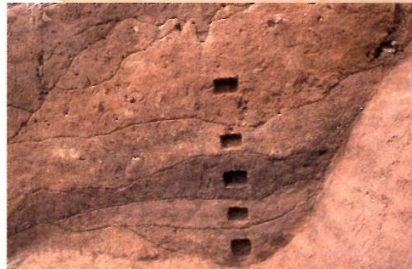


イネ コムギ

また、遺跡の土を調査したところ、花粉も見つかりました。それらを分析することで当時周りに生えていた植物がわかります。

例えば、大安場1号墳からはマツ属の花粉が多く見つっています。古墳が造られた当時、周辺にはマツ林があった可能性があります。

また、コナラやケヤキ、モミの木などがあつたこともわかりました。山形県の衛守塚2号墳の木棺は、ケヤキで作られています。大安場古墳の木棺は残っていませんが、同じくケヤキが使われた可能性があります。



土壌サンプル採取状況

どの時代の土から、どんな花粉が見つかったのかな？



大安場出土花粉 (左からマツ属、スギ属)

### 新型コロナウイルス感染症 拡大予防のお願い

大安場史跡公園のご利用にあたっては、「新しい生活様式」を踏まえ、感染拡大防止のご協力をお願いいたします。

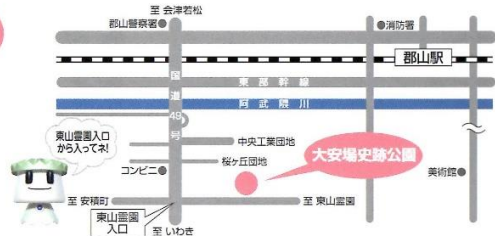
- (1) 人との間隔をあけ、身体的距離の確保をお願いいたします。
- (2) 「マスクの着用」と「咳エチケット」をお願いいたします。
- (3) こまめな「手洗い」や「手指消毒」をお願いいたします。
- (4) 当日は検温をし、ワクチン接種後であっても次の症状のあるお客様のご来園はご遠慮ください。
  - ・発熱又は風邪等の症状を呈する有症状者や具合の悪い方。
  - ・入園後の観察期間や濃厚接触者等政府所定の待機期間中である方。
  - ・その他、感染した恐れのある方等による懸念がある方。

### 大安場史跡公園 (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所: 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地  
電話: 024-965-1088 FAX: 024-965-1090  
Mail: ooyasuba@bunka-manabi.or.jp  
休館日: 月曜日(月曜日が祝日の時は次の平日)  
※公園は年中無休です。

ウェブサイトもチェック!

大安場史跡公園 検索



紙へリサイクル可  
この紙はFSC®認証紙です。



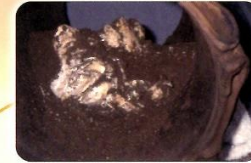
# まるさんかくしかく

タイトルはまるい石鯛、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。

## 遺跡写真展 「いきもの」と考古学

会場 荒井中央公園

期間 令和4年12月19日(月)~令和5年1月27日(金)



妙音寺遺跡出土 カワシンジュガイ



清水内遺跡川跡流水出土状況



正面27号墳出土 人骨

### 動物



荒井猫田遺跡出土 ニホンオオカミ骨

### 植物



妙音寺遺跡出土 クルミ



妙音寺遺跡出土 土器網代痕

動物や植物は、本来は土に還ってしまうものですが、条件がそろえば、千年以上前の動物や植物の痕跡が残る場合もあります。動植物がそのまま残ることもあれば、土器に植物の形が残る例など、様々です。そこから当時の自然環境がわかることもあれば、当時の人々の日常生活や、祈りの様子がわかる場合もあります。

今回は、そのような動物や植物の痕跡が残る遺跡を中心に、紹介します。

みょうおんじ  
妙音寺遺跡



247号土坑出土クルミ

妙音寺遺跡は、富久山町堂坂地区にある縄文時代中期の貯蔵穴が多数見つかった遺跡です。

縄文時代の人々は、地面に穴を掘り、木の実などの食べ物を保存することもありました。そのための穴を、貯蔵穴と呼びます。妙音寺遺跡では、貯蔵穴とみられる遺構から、炭化したクルミの殻も見つかっています。

保存していたクルミが残った可能性もありますが、全て殻だけの状態なので、食べた後の殻を捨てた場所の可能性も考えられます。

また、逆茂木と呼ばれる木材が見つかっています。逆茂木は、落し穴によく見られる木材で、落し穴の底に杭のように打ち付け、落し穴に落ちた動物が逃げ出さないようにするはたらきがあります。

この落し穴で、動物を捕まえて食べていたのかもしれません。



285号土坑逆茂木



259号土坑出土土器



植物の跡が、土器に残る場合もあります。土器の底を見てみると、葉の跡や網代の跡が残ることは、珍しくありません。土器を作る際、底に敷いて、回転台のように使っていたようです。妙音寺遺跡からも、網代の跡が残る土器が見つかっています。

貯蔵穴からたくさんの縄文土器も見つかっていて、土器の中からカワシンジュガイとされる貝殻が見つかりました。貝を食べた後に捨てた可能性が考えられます。

もしくは、装飾品や日用品の材料として保存していたのかもしれませんが。



213号土坑出土土器

まち  
町B遺跡

町B遺跡は、西田町鬼生田地区の遺跡で、縄文時代の集落が見つかっています。そこから、火災で焼けてしまった家の跡が見つかりました。

このように、火事等で炭になった木材が残る例があります。炭素年代測定法によって、遺跡の年代を調べる貴重な材料にもなります。



20号埋蔵調査風景



24号住居発掘状況

また、土器の中から子供の骨が見つかったことも注目です。小さな子供が亡くなった時には、土器をお腹の中に見立てて埋葬したようです。

近くからは、大人の骨が残るお墓が見つかりました。比較すると、大人と子供では埋葬の仕方が違うことがわかります。

しみずうち  
清水内遺跡

清水内遺跡は、大槻町にある古墳時代の集落を中心とした遺跡です。当時としては最先端の鍛冶技術や、お祭りを行った跡が残っています。

古墳時代の川跡から、大量の木材と土器が見つかっています。川のそばに、祭壇となる木製の台があったようです。

この上にたくさんの土器を並べて、水に関するお祭りを行ったようです。



2区川跡木材出土状況



1区1号井戸出土白

井戸の底から、木製の白が見つかっています。これも井戸、もしくは水に関するお祭りの儀式に利用されたものかもしれません。



6区1号柵列

お祭りが行われたと思われる場所から、柵の跡が見つかりました。左の図のようにみかん状に割った木材を使用し、神聖なお祭りの場所が人目につかないよう、囲っていたようです。